

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	嚥下障害(小児分野)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜1, 2限	教室名	第4校舎301
担 当 教 員	松浦雄史	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
小児領域、成人領域ともに摂食嚥下障害に関する、基本的知識、訓練手技等の習得を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
毎回の授業の終わりに小テストを実施する。その小テストを復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
摂食嚥下障害は言語聴覚士の業務において高いニーズがある。嚥下障害の基本的知識に加えて、小児分野における嚥下機能の獲得およびリハビリテーションを理解することは、言語聴覚士として摂食嚥下のリハビリテーションを行う上での土台を築くことになる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食嚥下障害の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	摂食嚥下障害の基本的な考え方と5期モデルの認知期、準備期について学び、理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食嚥下障害の5期モデルについて理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	摂食嚥下障害の5期モデルについて学び、摂食嚥下のメカニズムを理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食嚥下の神経機構、プロセスモデルについて理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	摂食嚥下障害の神経機構を学び、咀嚼嚥下について、プロセスモデルを通して理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の摂食嚥下の特徴について理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	加齢に伴う、摂食嚥下機能の変化について学び、高齢者の摂食嚥下のリハビリテーションの留意点を理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食嚥下機能の評価について理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	摂食嚥下障害の評価について、RSST、MWST等を学び、理解する。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 摂食嚥下障害機能の検査について、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	VE、VFなど、摂食嚥下機能の検査について、検査ごとの特徴と実施における注意点等を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 摂食嚥下リハビリテーション、間接訓練について学び、実施できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	摂食嚥下リハビリテーションの主な間接訓練の適応や目的、方法を、実技を通して理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 摂食嚥下リハビリテーション、直接訓練について学び、実施できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	摂食嚥下リハビリテーションの主な直接訓練の適応や目的、方法を、実技を通して理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳児期の摂食嚥下機能の発達について、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	乳児期の口腔、喉頭の形態と摂食嚥下機能の変化について学び、理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 幼児期の摂食嚥下機能の発達について、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	咀嚼機能の発達や、水分摂取など、幼児期の摂食嚥下機能の発達について、実技を通して理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 小児の摂食嚥下の間接訓練を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	バンゲード法やガムラビングなど、小児の摂食嚥下の間接訓練を実技を通して学び、理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 小児の摂食嚥下の直接訓練を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	小児の摂食嚥下の直接訓練の中で、咀嚼練習や甘未刺激訓練について、症例を通して学び、理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 気管カニューレ、経管栄養、嚥下機能への手術的介入について説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	気管カニューレや経管栄養の特徴、また、嚥下領域における手術的介入について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 遺伝子異常を伴う子どもの摂食嚥下障害について説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	遺伝子異常を伴う子どもの摂食嚥下機能の評価、リハビリを症例の検討とグループディスカッションを通して、理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 知的障害、発達障害に伴う、摂食障害を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
	各コマにおける授業予定	知的障害、発達障害に伴う、摂食障害を症例を通して学び、課題を検討する。		